

中村政人先生(美術学部・油画)が 学生にすすめたい本

1. 『レイアウトの法則 アートとアフォーダンス』 佐々木正人著 (春秋社)

ジェームス・ギブソンのアフォーダンス理論研究の第一人者、佐々木正人さんがアーティスト、評論家と対談形式で論考をすすめていく。「絵画は見られるものである。それは視覚から逃れることはできない。視覚と絵画を結びつける素朴さ、視覚と絵画とに同じ事を見ようとするおおらかな信念は正しい。問題は、「絵画は視覚の表現である」と主張するとき採用される視覚の理論にある」

表現の動機があたかも自分の中から生まれてきたとおもっている事に疑問を持っている学生は、必読です。私達の周囲を包み込んでいる肌理が気になり出しますよ。

2. 『少年アート ぼくの体当り現代美術』 改訂版 中村信夫著 (弓立社)

著者である中村信夫氏が英国に留学し、タイトルのごとく体当たりして経験(冒険)したアートシーンをクリティカルに描写している。

私もそうだが、学生時代に、この本を手にとったことで自分の制作活動に自信と勇気を与えられた人は多いと思う。

著者がロンドンのRCA大学院入試のインタビュー試験で制作ファイル(絵日記のようなもの)を教授に見せたとき、「これは、2Dのイメージだ。ここは彫刻科であるから方向が違う」と言われ、すぐさまその制作ファイルを開き、机の上に自立するように立てて置いて見せた。これで3Dのイメージになる。と答え、難関を突破し合格したという。著者も鋭いが、合格させた教授の判断力、その大学の制度が優れている。本著に登場してくる、作家名、美術館、ギャラリー、展覧会名などを知ることは、美術界の基本地図のような存在とも言える。